学校番号	318

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報検定演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・資格取得を念頭に置き、より社会で役立つスキルをこの１年で身につけましょう。
・１学期７月検定では文書デザイン検定試験１級、２学期１２月検定では情報処理技能検定試験（表計算）１級の合格を目指して授業を進めていきます。
・表計算ソフトウェアの利用を通して、１年次「情報Ｉ」での既習内容よりも発展的な知識理解と技術の習得を目指します。身に付けた知識と技術を用いて、自ら考え、判断し、表現する学習を行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・文書作成ソフトや表計算ソフトを活用するための基本的な知識と技能が身に付けている。
・関数を用いた効果的なデータ活用、情報デザインの考え方に基づいたグラフの作成について理解している。
【思考力、判断力、表現力等】
・情報伝達するために適切かつ効果的な情報デザインを考え、誰に伝えたい情報なのかを考え、効果的なソフトを利用して作品を表現している。
・文書作成ソフトや表計算ソフトの知識と技術が習得できており、情報伝達手段の重要性について考えることができる。
【学びに向かう力】
・文書作成ソフトや表計算ソフトを活用する技術があり、課題に応じた文書作成に主体的に取り組もうとしている。
・情報発信に必要な情報を整理し、自分の学びを改善しようとしている。
・実践的・体験的な学習活動を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の解決に向かって主体的に取り組もうとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・文書作成ソフトを活用するための基本的な知識と技能が身に付けている。 ・文書の構造を理解し、言葉の意味や役割・利用方法などについて理解している。 ・表計算ソフトを活用するための基本的な知識や技能を身に付けている。 ・関数を用いた効果的なデータ活用、情報デザインの考え方に基づいたグラフの作成について理解している。	・情報伝達するために適切かつ効果的な情報デザインを考え、誰に伝えたい情報なのかを考え、効果的なソフトを利用して作品を表現している。 ・文書に関する知識と技術が習得できており、情報伝達手段の重要性について考えている。 ・表計算ソフトを活用して適切なデータの整理や処理の方法について考えている。	・ワープロソフトを活用する技術があり、課題に応じた文書作成に主体的に取り組もうとしている。 ・情報発信に必要な情報を整理し、自ら評価し改善しようとしている。 ・実践的・体験的な学習活動を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の解決に向かって主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	情報デザイン	情報デザインの考え方について	a:情報デザインの目的を理解できる。 b:情報を整理し、適切に構造化・可視化して表現できる。 c:情報デザインを効果的に活用し、受け手に伝わりやすいデザインについて考えている。	定期考査	定期考査	授業観察 ワークシート
	デザイン文書の作成	デザイン文書の作成	a:文書処理ソフトウェアの応用的な操作方法を身に付けている。 b:文書処理ソフトを使用して、適切な表現方法を判断することができる。 c:検定問題のより上位の級の技術習得を目指し、粘り強く取り組もうとしている。	定期考査	実技試験	授業観察 ワークシート
2学期	計算ソフトフェアの基本的な利用	表計算検定 準2・2級	a:応用的な関数や多重判断文を使ったデータ処理について理解している。 b:データに応じた表示形式やレイアウトを適切に判断することができる。 c:表計算ソフトウェアを利用した実習について、意欲的に粘り強く取り組もうとしている。	定期考査	実技試験	授業観察 ワークシート
	表計算ソフトフェアの応用的な利用①	表計算検定 準1級	a:表計算ソフトウェアを活用して統計処理などを行い、伝えたい情報にあった適切なグラフを作成できる技能を身に付けている。 b:情報を効果的に分析するためにどのような形のグラフを利用すべきか説明することができる。 c:収集したデータなどを表計算ソフトウェアを利用して統計処理を行い、グラフ化する活動に対し、意欲的に取り組もうとしている。	実技試験 定期考査	実技試験	授業観察 ワークシート

3学期	表計算ソフトフェアの応用的な利用②	表計算検定 1級	a:データベース関数や多重判断文を使ったデータ処理について理解している。 b:データに応じた表示形式やレイアウトを適切に判断することができる。 c:表計算ソフトウェアを利用した実習について、意欲的に粘り強く取り組もうとしている。	定期考査 実技作品	定期考査	授業観察 ワークシート
	プログラミング	・アルゴリズムとその表記 ・プログラミングの実践 ・探索と整列のプログラミング	a:アルゴリズムの考え方を理解できている。変数、繰り返し処理、配列を駆使したプログラミングの方法を理解できている。 b:目的を達成できるプログラムを完成させられている。 c: 実習成果物を妥協なく作成でき ており、日々のノート、振り返りに積 極的に取り組めている。	定期考査 実技作品	定期考査	授業観察 ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度